

当月のS&P MLP 指数の動き

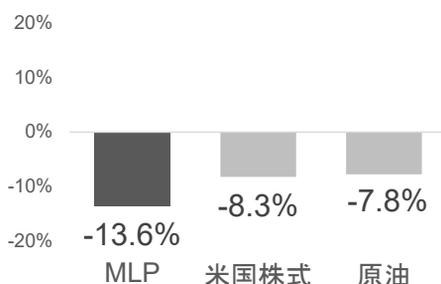
8月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比 +3.8%と2カ月連続での上昇となりました。

7月の米消費者物価指数の伸びが予想以上に鈍化したことを受け、インフレがピークアウトしたとの見方とともに、利上げペースが和らぐとの観測が広がったことなどから、MLPは上昇基調となり、下旬にかけて今年6月につけた高値を更新しました。ただし、ジャクソンホール会議におけるパウエルFRB(米連邦準備制度理事会)議長の発言を受け、利上げ継続への意識が強まったことから、下旬にかけては、米国株式とともにMLPも下落基調となりました。

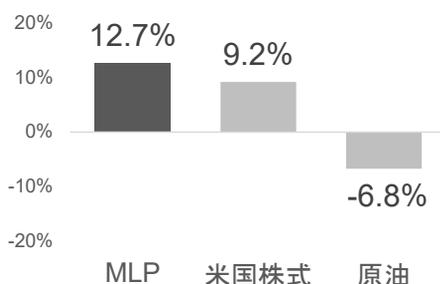
過去3カ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)

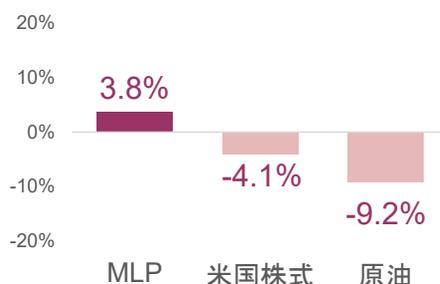
2022年6月



2022年7月



2022年8月



主要指標の動き

MLP:S&P MLP 指数、米国株式:S&P 500 種指数、原油:WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3カ月前月末	前年末	前月末比	3カ月前月末比	前年末比
	2022/8/31	2022/7/31	2022/5/31	2021/12/31			
S&P MLP 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	5,913.76	5,697.61	5,852.23	4,495.14	3.8%	1.1%	31.6%
プライスリターン	1,330.23	1,299.14	1,343.52	1,071.99	2.4%	-1.0%	24.1%
S&P 500種 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	8,374.42	8,730.46	8,712.60	9,986.70	-4.1%	-3.9%	-16.1%
プライスリターン	3,955.00	4,130.29	4,132.15	4,766.18	-4.2%	-4.3%	-17.0%
S&P 500種 エネルギー株指数(米ドルベース)							
トータルリターン	1,291.52	1,255.99	1,375.95	868.26	2.8%	-6.1%	48.7%
プライスリターン	611.80	598.74	658.00	422.74	2.2%	-7.0%	44.7%
S&P 米国 REIT 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	1,602.89	1,704.14	1,687.56	1,959.66	-5.9%	-5.0%	-18.2%
プライスリターン	341.71	363.82	363.00	425.81	-6.1%	-5.9%	-19.8%
米国ハイイールド債(ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス(米ドルベース))							
トータルリターン	1,404.48	1,438.94	1,456.32	1,578.79	-2.4%	-3.6%	-11.0%
プライスリターン	65.77	67.74	69.29	76.94	-2.9%	-5.1%	-14.5%
米国10年国債利回り							
	3.19%	2.65%	2.84%	1.51%	0.54	0.35	1.68
原油(WTI) 米ドル/1バレル当たり							
	89.55	98.62	114.67	75.21	-9.2%	-21.9%	19.1%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり							
	9.13	8.23	8.15	3.73	10.9%	12.1%	144.7%
米ドル(対円)							
	138.96	133.27	128.67	115.08	4.3%	8.0%	20.8%

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

当月の出来事いろいろ

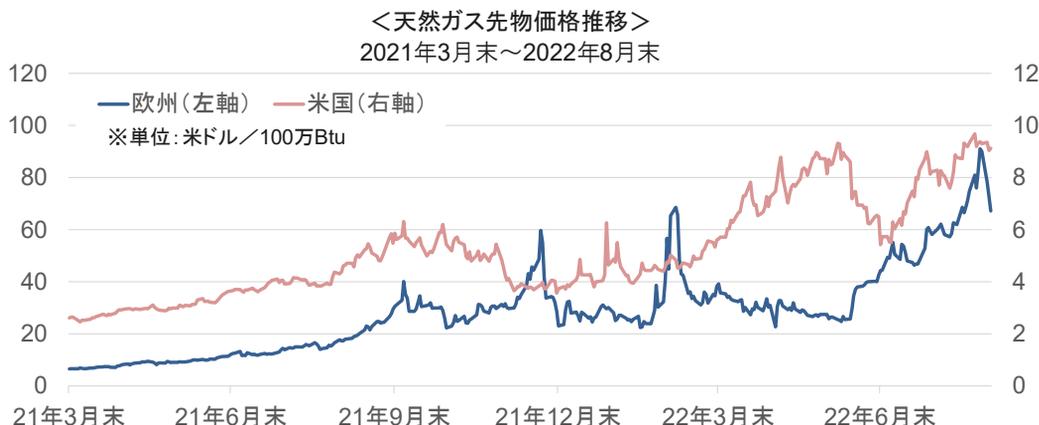
- 4日、英イングランド銀行(中央銀行)が、27年半ぶりとなる0.5ポイントの大幅利上げを決定したほか、同国経済が2022年10-12月期から2023年末まで景気後退に陥るとの見通しを示したことを受け、世界的な景気減速への懸念が高まり、WTI原油先物価格が1バレル=88米ドル台と、2月のロシアによるウクライナ侵攻前の水準まで下落した。
- 15日に中国で発表された、7月の鉱工業生産、小売売上高、そして1-7月累計の都市部固定資産投資の伸びが揃って鈍化した。また、ガス不足に伴うドイツ景気の先行き懸念などもあり、原油先物価格は、16日にかけて大きく下落。WTIは、16日に前日比-3.2%の86.53米ドルとなった。
- 17日に発表されたEIA(米エネルギー情報局)の週間統計において、原油在庫が予想以上に減少したことなどを受け、原油先物価格は反発した。WTIは19日にかけて続伸した。
- 19日、ロシアの国営エネルギー企業が、同国と欧州を結ぶパイプライン「ノルドストリーム1」を通じた天然ガス供給について、保守点検を理由に8月31日から9月2日まで停止すると発表した。これを受け、欧州を中心に天然ガス先物価格が上昇した。
- 26日、ジャクソンホール会議において、パウエルFRB議長が、利上げの継続が必要と発言したほか、早急過ぎる金融緩和に否定的な見方を示し、景気抑制的なスタンスを一定期間維持する可能性が高いと述べた。これを受け、米国では国債利回りが上昇し、株式市場が下落した。

今後の注目点

- 欧米における金融政策動向が注目される。
(ECB(欧州中央銀行)理事会:9/8、FOMC(米連邦公開市場委員会):9/20・21)

天然ガスの価格動向

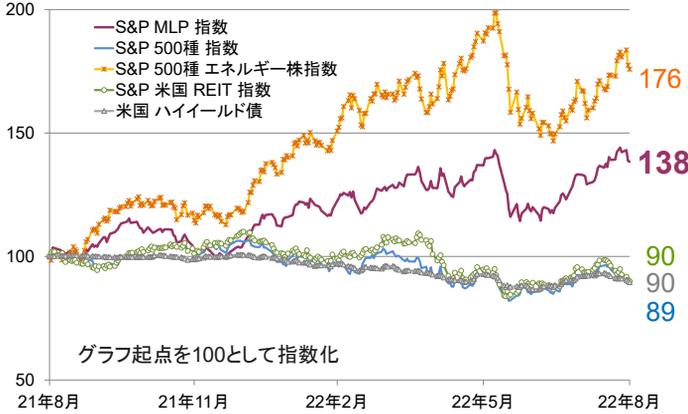
ロシア国営のエネルギー企業が「ノルドストリーム1」を通じた、欧州への天然ガスの供給を大きく絞ったことなどを背景に、6月中旬以降、欧州を中心に天然ガス価格が高騰しています。暖房需要が増える冬場にかけて、天然ガス価格の上昇圧力は続くとみられ、欧州を中心に物価および景気への影響が懸念されます。



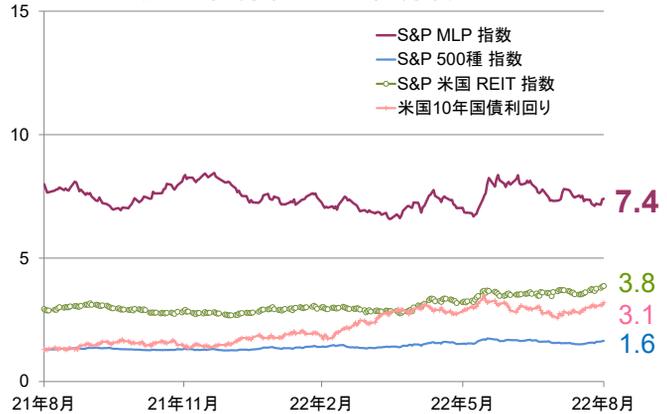
(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)
(2021年8月末～2022年8月末)



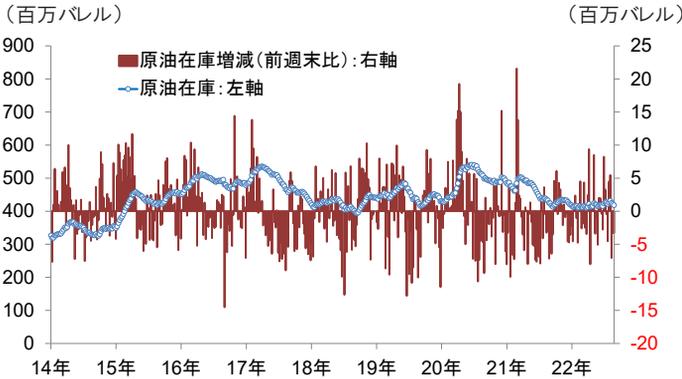
■過去1年の各資産の利回り
(2021年8月末～2022年8月末)



※各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。
 ※上記利回りは切り捨てにて端数処理しています。
 ※各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

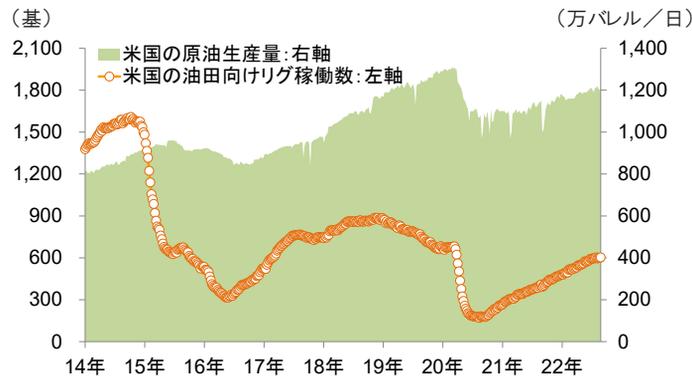
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2022年8月第4週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

(2014年1月第1週末～2022年8月第4週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給緩和懸念(引き締め期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給緩和と懸念(引き締め期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2022年8月31日)



* 米ドル指数は主要通貨に対する米ドルの水準や動きを示す指数です。

原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調に振れる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)
 ※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。